

# みやぎ 地域防災の アイデア集

# 08

## 住民参加・取組の促進

### 1 自助の啓発・取組促進

事例08-1-1 【登米市】 住民意識調査の実施

事例08-1-2 【丸森町】 手作り防災減災心得の作成・配布

### 2 訓練等行事への参加促進

事例08-2-1 【岩沼市】 地区独自の防災訓練において「参加意識」を高める工夫

事例08-2-2 【登米市】 防災クイズによる家庭内備蓄の推進

### 3 子どもや保護者を巻き込んだ取組の促進

事例08-3-1 【気仙沼市】 総合的な学習の時間を活用した中学生との世代間交流

事例08-3-2 【仙台市】 子ども会と連携した防災ワークショップ

事例08-3-3 【栗原市】 子どもたちによるまち歩きの実施

事例08-3-4 【多賀城市】 夏祭りで防災！非常用持ち出し袋コンテスト

### 4 住民間のコミュニケーション促進

事例08-4-1 【東松島市】 地区懇談会＋全戸訪問による住民の実態把握

事例08-4-2 【亘理町】 「土手の花見」型防災

事例08-4-3 【仙台市】 多世代が参画するマンション防災ワークショップ

### 5 自主防災組織間の学び合い

事例08-5-1 【栗原市】 他の自主防災組織の活動の見学

事例08-5-2 【登米市】 他の自主防災組織の活動の見学

事例08-5-3 【栗原市】 他の自主防災組織との交流

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

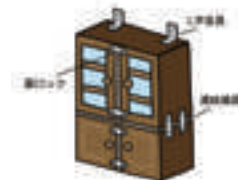
## 08 1 自助の啓発・取組促進

- 自助とは、自分自身や家族の命と財産を守るために、自分や家族で防災に取り組むことです。自分(家族)の身は自分(家族)で守る、の考えのもと、日常的な災害に対する備えや災害時の対応を行っていくことを指します。
- 災害時、まずは自分の身は自分で守る「自助」が重要であり、地域での助け合い「共助」を有効に機能させるためにも、自主防災組織が日頃から、住民一人ひとりや家族内の「自助」を促す啓発活動を行い、防災意識の向上に努めましょう。
- 地域における情報共有の媒体(自治会の回覧板や掲示板等)や機会(祭り等の行事)を活かし、啓発資料の作成・配布等を通じて、家庭の備えを進めるよう呼びかけます。

### 進め方とポイント

#### 家具・家屋の安全

- 耐震診断・補強等による古い木造家屋の安全対策
- 市販の器具等による家具の転倒・落下防止対策
- 住宅用火災警報器の設置促進や消火器の設置・点検等の住宅防火対策



#### 家庭内の備蓄

- 家族一人ひとりに合わせて必要な食料・飲料水や生活用品、お薬(お薬手帳を含む)等を、災害時に持ち出せるよう備えておきます。



#### 避難方法・避難場所の確認

- 災害の種類にあわせて、いつ、どのように、どこへ避難するかを家族で話し合い、決めておきます。  
※3-2避難方法の理解を参照

#### 安否連絡方法

- 災害用伝言ダイヤル(171)や災害用伝言板サービス等のほか、遠方の親戚等を介した連絡方法など様々な手段を紹介するとともに、集合場所を決めておくなど、家族での話し合いを促します。



#### 災害情報の収集・活用

- 災害時に大雨・洪水警報等の防災気象情報や河川情報、自治体による避難情報を収集・理解し、避難判断に活用できるよう、住民の共通理解を深めます。



#### 避難行動要支援者(世帯)の自助促進

- 避難支援の対象となる避難行動要支援者(世帯)には、自主防災組織が行う共助の内容を確認したうえで、避難時に求める行動や避難時・避難生活に必要な物品の備え等を促します。



## 事例 08 1 1 住民意識調査の実施

## 登米市 細谷区自主防災組織

■ 細谷区自主防災組織は、水害を想定した避難時の不安材料や困りごとに関する住民意識調査を実施した。

## 進め方とポイント

## 準備(調査票の検討)

- 調査票の内容は、関係者や専門家等の参考意見も聞きながら、自主防災組織として把握したいことを中心に構成する。

## 調査結果の集計・分析

- 調査結果を集計、分析し、結果の要点を自主防災組織として共有した(主な結果は下表の通り)。

## 主な調査結果(一部抜粋)

## 住民にとって心配なことトップ3の回答

- 大雨時に避難するタイミングがわからない。
- 車で避難したいが、道が渋滞になり避難所にたどり着けないのではないかと心配。
- 避難した後、誰もいなくなってしまった家が防犯上、心配。

## 年代別の心配事の違い

- どの年代も回答者の30%近くが2階への避難を考えている。
- 10代、20代は他の年代と比べて避難所を知らない割合が高い。
- 70~90代は避難所を知っているが、安全な避難経路を知らない割合が高い。
- 70~90代は車で避難ができるのか不安を感じている。
- 70~90代は2階への避難後の孤立に不安を感じている。
- 年代が上がるほど、避難所での過ごし方に不安を感じている。

## 男女別の心配ごとの違い

- 男性は女性に比べ、車での避難を考え、道が渋滞することを心配している。
- 女性は男性に比べ、避難後の家の防犯や、避難所での過ごし方について不安を感じている。
- 一人で移動できない方の割合は男性に比べて女性が多く、それに伴い誰と避難したらよいかわからない女性の割合が高い。
- 男性は避難所に向かわず2階への避難を考えている方が多いが、その安全性については不安を抱えている。

## この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- 水害を想定した避難時の不安材料や困りごとに関して、住民意識を調べようと自主防災組織が意欲的に取り組んだ。
- 自主防災組織の役員とアドバイザーが協力・調整して調査票を作成した。
- このような調査を実施することにより、年代別や男女別の多様な住民ニーズを把握することができ、効果的な対策につなげやすくなる。

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

## 令和元年度 細谷区防災アンケート調査（案）



細谷区は大雨によって過去に水害を経験し、ハザードマップでも浸水の恐れがある地域です。細谷区はみなさんが避難する時に心配な事を把握するために、大人から子どもまで、住民一人一人（中学生以上）にアンケートをとることにしました。豪雨災害から命を守るために、自宅から避難する場合に、あなたが心配していることを教えてください。

なお、回答いただいた内容については、自主防災活動のみに活用するすることとし、他の目的では使用いたしません。

細谷区役員一同

当てはまる番号全てに○、その中でも一番心配なことには◎をつけて下さい。

1. 家の2階に避難したいけれど、2階に居れば安全に過ごせるのかわからない。
2. 家の2階に避難したいけれど、地域が浸水した時、孤立してしまうのではないかと不安。
3. 避難のことについて、家族で話し合っていないことが不安。
4. 大雨時に避難するタイミングがわからない。
5. 大雨時の避難情報がよくわからない。
6. 避難所に向かいたいけれど、どこが避難所なのかわからない。
7. 避難所は知っているけれど、避難所までの安全な道すじがわからない。

★アンケートは裏面に続きますー

8. 避難所は知っているけれど、自分がそこに受け入れてもらえるのかわからない。
9. 支援を必要とする家族の避難方法と避難所の受け入れ体制が不安。
10. 避難所は知っているけれど、何を持って避難所に行けばいいかわからない。
11. 怪我や持病があり、薬や医療機器が必要になるが避難所に持っていけるよう準備ができていない。
12. 避難所に向かいたいけれど、自分一人では移動ができない。
13. 車で避難したいけれど、道が渋滞になり避難所にたどり着けないのではないかと心配。
14. 避難した後、誰もいなくなってしまった家が防犯上、心配。
15. 避難した後、家族と連絡がとれるかどうかわからない。
16. 避難所でどのように過ごせるのか不安。
17. その他：不安なことをご記入ください。


年齢：\_\_\_\_\_歳（年代別の困りごとを把握するためご記入ください。）

性別： 男・女・無回答（性別の困りごとを把握するためお答えください。）

氏名：\_\_\_\_\_（差し支えなければご記入ください。）

★アンケートへのご協力ありがとうございました。

〇月〇日に避難訓練を実施しますので、参加して不安を解消しましょう！

## 事例 08 1 2 手作り防災減災心得の作成・配布

## 丸森町 金山地区自主防災会(坂町地区)

- 金山地区の8行政区のひとつである坂町地区は、35世帯と規模が小さい上に高齢化率も高いため、毎年、防災減災の様々な啓発活動について手法を変えて展開している。
- 手作りの冊子「防災減災心得」を作成し、全世帯に配布した。

## 進め方とポイント

- 記載する内容についてデータや資料を集め、冊子を作成した。
- データや資料の収集にあたり、アドバイザーや防災士、関係機関等に協力を求め、情報提供を得た。
- データや資料については、ウェブサイトや関係機関で配布している資料を常に収集してストックしておくとうい。

		
<p>主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の行動マニュアル</li> <li>・避難マニュアル</li> <li>・避難レベルごとの行動</li> <li>・消火器の取扱いマニュアル</li> <li>・役員名簿</li> <li>・行政等の緊急連絡先</li> <li>・水・非常備蓄品</li> <li>・耐震化のすすめ</li> </ul>	<p>主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路で地震が来た時の注意点</li> <li>・役立つ防災グッズ</li> <li>・ローリングストック法</li> <li>・避難時に注意する場所など</li> <li>・避難時の注意点</li> <li>・地区内一次避難場所の地図</li> <li>・自主防災会組織図・連絡網</li> </ul>	<p>主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食物アレルギーの知識</li> <li>・避難時の服装</li> <li>・警戒レベルととるべき行動</li> </ul>

## この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- 高齢者が見てもわかるよう、イラストを多く入れる工夫をしている。
- 手の届くところにおいてもらうよう、サイズを小さくしている(A5版)。

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11



道路で地震が来た時の注意点



防災グッズ一覧1



防災グッズ一覧2

## 08 2 訓練等行事への参加促進

- 防災活動が災害時に効果を発揮するには、活動の継続や多くの住民の参加により活動が定着するとともに、それぞれの地域にとって現実味のある実践的な訓練とすることが重要です。
- 一方で、訓練等行事のマンネリ化や参加者の固定化が課題となっている地域も多くみられます。
- 訓練等行事に関する住民意向・ニーズを把握し、行事内容や周知方法の工夫を行うことにより、参加促進を図りましょう。

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

### 進め方とポイント

#### 訓練等行事に関する住民意向・ニーズの把握

- 訓練等行事について住民アンケートを実施し、行事の内容や方法等に関する意向やニーズを把握します。
- 訓練等行事に参加しない世帯や、自治会に参加しない世帯からも意見を聴取できる方法を検討しましょう。

#### 訓練等行事の内容の工夫

- 上記の結果を踏まえて、訓練等行事の実施内容や方法、時期などを見直しましょう。
- 訓練内容の一部に、コンテストやゲームの要素を取り入れたり、参加特典として災害時に役立つグッズや災害食等を配布したりと、楽しく親しみやすい工夫を取り入れるとよいでしょう。
- 学校やPTA、子ども会などと連携し、訓練内容の一部を小中学生や保護者に担ってもらうなど、担い手を増やすことも参加促進につながります。
- 自助をより推進するため、参加者に配布する景品はなるべく防災グッズ(家具転倒防止器具や備蓄食料など)にするとともに、大掃除や買い物が盛んになる年末に時期を合わせると、より住民の行動変容につながりやすくなります。



#### 周知方法の工夫

- 子どもや保護者が参加しやすいよう、学校やPTAと連携して周知を行うとよいでしょう。
- 親しみやすいデザインのチラシを作成し、地域住民の目に留まりやすい場所に掲示しましょう。地域の商店街などへの周知・実施の協力依頼も検討してみましょう。

防災  
訓練

## 事例 08 2 1 地区独自の防災訓練において「参加意識」を高める工夫

## 岩沼市 本町第一親交会自主防災組織

- 本町第一親交会では、市の総合防災訓練とは別の季節・日程に、町内会独自の防災訓練・イベントを設定し、参加者が集まりやすく、楽しみながら学べる工夫を取り入れている。
- 平成30年度の訓練では、一般の住民を対象に、防災に関するクイズ(正解者には防災グッズを進呈)を取り入れ、会場を盛り上げながら学ぶ機会を設けた。平成29年度は、子供の参加と体験を重視し、複数の訓練・学びの場面をスタンプラリー式に回れる工夫を取り入れ、いずれもゲーム要素と防災知識を深める取組に力を入れている。

## 進め方とポイント

## ①防災クイズ

- 災害時(水害、竜巻等)に身を守る行動や、消火器の使用法、災害に備えて備蓄しておく役立つグッズについて体験をもとに紹介するなど、ゲームの要素を取り入れながら、学びを深めるクイズを多数用意した。
- 一番早い正解者には、数百円程度の防災グッズを進呈したほか、会場が盛り上がるように進行や説明も工夫した。



親子で学べる防災クイズ



役立つ備蓄グッズの紹介

## ②防災スタンプラリー

- 子どもも大人も体験できる訓練として、①ロープ結び、②新聞紙を使ったスリッパ折り紙(地震発生時の足の保護)、③発電機の始動体験、④担架搬送の体験を準備し、スタンプを集めながら4訓練を体験できるよう工夫した。
- 特に、子どもの参加を呼びかけ、スタンプを貯めながら4つの訓練をすべて体験できるよう、楽しみの要素も交えて企画した。

## この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- 防災訓練に住民や子どもが参加してもらえるよう、楽しさや体験を重視した訓練項目を工夫し、クイズやスタンプラリーをほかの訓練項目と組み合わせている。



## 事例 08 2 2 防災クイズによる家庭内備蓄の推進

## 登米市 細谷区自主防災組織

- 細谷区自主防災組織は、防災訓練の参加率を高める企画の一つとして、参加者が楽しみながら取り組める防災クイズを実施し、上位回答者には家庭内備蓄を促進するための物品を提供した。

## 進め方とポイント

## 準備

- 家庭内の備蓄に有効な景品を準備する。
- 地元に関連した問題を用意すると、参加者の関心がより高まる。



家庭内備蓄品の例

## 防災クイズの実施

- 防災クイズは、参加者が取り組みやすいように、〇×式とし、上位正解者から順に景品を進呈した。



防災〇×クイズ取組の様子

## 防災〇×クイズの問題の例

問題の例-1 気象庁の震度階級に関する問題です。

- Q. 現在、運用されている気象庁の震度階級は、気象台の職員などの観測員が、体感および周囲の状況をもとに判定している。
- A. (×)かつては、震度は体感および周囲の状況から推定していましたが、平成8年(1996年)4月以降は、計測震度計により自動的に観測し速報しています。

問題の例-2 令和元年東日本台風に関する問題です。

- Q. 令和元年東日本台風について、佐沼観測局で観測された総雨量(雨の降り始めから終わりまでの降水量の合計)は約160mmであった。(ヒント:丸森の筆甫の総雨量は約600mmでした。)
- A. (○)163mm。

## この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- 参加者が楽しみながら取り組めたことで、家庭内備蓄の促進につながった。

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

## 08 3 子どもや保護者を巻き込んだ取組の促進

- 訓練等行事やその他の防災活動に子どもや保護者の参加を推進することで、若い世代の意見を取り入れて活動を活性化させるとともに、地域の将来の担い手に活動を継承させることにつながります。
- 学校やPTA、子ども会等と連携して既存の防災活動を企画・実施したり、新規の防災活動のアイデアを募ったりしてみてもよいでしょう。

## 進め方とポイント

## 学校と連携した子ども・保護者の参加促進

- 新学習指導要領<sup>①</sup>（下記参照）において防災に重点が置かれ、また、学校、保護者及び地域が共に学校運営に取り組むコミュニティスクール（学校運営協議会制度）<sup>②</sup>（下記参照）も年々増加していることから、学校と連携して、小中学生とともに地域の防災活動を進める機会が増えています。
- 学校の防災学習等のなかで小中学生や保護者とともに地域の防災マップづくりや避難所運営などに取り組むと、新たな視点が生まれ効果的です。
- 地域における訓練等の防災行事にも、学校と連携して小中学生に協力してもらおうとよいでしょう。

## 子ども会と連携した子ども・保護者の参加促進

- PTAや子ども会などと連携し、既存のイベント等に防災の視点を取り入れることで、子どもや保護者への防災意識の啓発につながります。
- PTAや子ども会を通じて、訓練等行事の一部内容を小中学生や保護者に担ってもらおうなど、担い手を増やすことも重要です。



## ワンポイント解説

## ① 新学習指導要領とは？

- 平成29・30年度学習指導要領改訂により、「防災・安全教育」が重要事項の一つとして組み込まれました。
- 小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から全面改訂となり、学校における防災学習の機会が増える見込みです。

## ② コミュニティスクール（学校運営協議会制度）とは？

- 学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進める取組です。
- この仕組みを利用して、地域と子どもたちが一緒に防災学習を進めている学校もあります。

## 事例 08 3 1 総合的な学習の時間を活用した中学生との世代間交流

## 気仙沼市 南郷三区自治会

- 南郷三区は、住民と近隣の中学生の交流行事を毎年企画し、平成29年度は、排水機場（ポンプ施設）の現場見学をはじめとしたまち歩きの情報をもとにした南郷地区防災マップを作成し、交流会の日に防災マップの発表を行った。
- 平成30年度は、南郷住宅の敷地に設置されている「かまどベンチ（2台）」を活用し、地区住民指導の下、大鍋の湯で炊飯する訓練や、アルミ缶をかまどにしたサバメシ炊飯にも挑戦した。

## 進め方とポイント

## 準備

- 中学校の担当教員と事前協議を重ね、その年の交流会のテーマを調整する。
- かまどベンチやアルミ缶を活用した野外炊飯と試食会を住民・生徒らの交流テーマに据え、災害発生時の効率的な炊飯方法を議論した。

## ① 住民によるかまど指導

- 南郷住宅の住民が協力し、かまどベンチの燃料や火おこしを準備して、焚火と炊飯の方法を中学生に指導した。
- 調理する材料や調理器具は学校側が準備し、かまどで大鍋に湯を沸かして、湯煎による炊飯を行った。

## ② 中学生による空き缶炊飯

- 生徒らが持参した空き缶や燃料、米を使い、少ない燃料で炊飯する方法も試した。



住民による火おこしの説明



かまどベンチの設営



湯煎による炊飯の様子

## ③ 調理や試食を通じた住民との交流と学び

- 災害時に実践できる調理方法を①②で体験し、それぞれの方法で炊いた白飯を食べ比べるなど住民との交流も計画した。

## この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- 災害公営住宅である南郷三区自治会が住民に参加や協力を呼びかけ、地元中学校の生徒と共に防災や災害対応について学ぶ機会を設けている。
- 毎年違った内容としていることが継続的な取組につながっている。

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

## 事例 08 3 2 子ども会と連携した防災ワークショップ

## 仙台市 グリーンキャピタル長町Ⅱ管理組合

■ グリーンキャピタル長町Ⅱ管理組合は、子ども会と連携した親子参加型の防災ワークショップを開催し、マンション居住者の防災意識の向上に取り組んだ。

## 進め方とポイント

## 準備

- 小学生の子どもたちが防災について楽しく学べる活動内容を提供できる講師を探す。
- 活動に必要な消耗品等を準備する。

## 子ども会との連携

- 子ども会役員に対し、防災をテーマとした親子参加型の活動である趣旨を伝え、実施に向けた協力関係を構築した。
- 防災ワークショップの開催日時、活動内容について関係者間で打ち合わせを行った。
- 子ども会のネットワークを活かして、開催案内チラシの配布や参加の呼び掛けを行った。

## 防災ワークショップの実施

- 親子で楽しみながら参加できる体験型の活動とした。
- 活動内容に関連させて、家庭での災害への備えについても解説した。

## 防災ワークショップでの活動内容

- ①新聞紙でスリッパづくり ②新聞紙でコップづくり ③紙でスプーンづくり ④ゴミ袋でレインコートづくり  
⑤風呂敷で作る防災アイテム(バックやリュック) ⑥「じゃがりこ」にお湯を入れてつくるマッシュポテト  
⑦お湯や水を入れて作る非常食の試食



防災ワークショップの活動の様子

## この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- マンション居住者のうち、若い世代の防災意識の向上や家庭内備蓄を促進するとともに、理事会役員との交流につながった。
- 子どもたちに受け入れられ、かつ有効な活動とすることができる適切な講師を探すことができた。

## 事例 08 3 3 子どもたちによるまち歩きの実施

## 栗原市 高清水地区九区自治会自主防災会

- 高清水地区九区は、地域防災訓練への若い世代の参加が年々減ってきていることを踏まえ、若い世代の参加を増やすため、親子での参加が見込めるイベント型の防災訓練に取り組んだ。
- 主に小学生を対象に、町内の消火栓を探しながらキーワードを完成させ、景品がもらえるオリエンテーリング形式の防災まち歩きを実施した。

## 進め方とポイント

## 準備

- 事前に町内の現地調査を行い、消火栓の位置を確認し、歩くルートを決めるとともに、道幅の狭い危険な場所を確認する。
- また、消火栓の位置と歩くルートを地図に記載した、まち歩き用のマップを作成するとともに、キーワード、問題用紙、その他備品や景品などを準備する。

## 小学生対象防災まち歩き

- 担当者から内容を説明し、危険がないよう注意を与え、同行者も一緒にスタートした。
- 消火栓のある場所を巡りながら消火栓についての説明を行うとともに、アルファベットを集め、キーワードを完成させた。
- 参加者全員に景品としてアルミのブランケットを配布し、その使い方も説明した。



まち歩きの様子

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

No.1 茂みの中にあります。  
葉に気をつけて探して下さい。

No.2 道路車庫庫のすぐ奥です。

No.3 ツタが絡まった表のすぐ奥です。

No.4 旗の棒の中を見てください。

No.5 いちよう階段で目立ちます。

No.6 ゴミ置き場の隣です。

○各チェックポイントのカードに書いてあるキーワードを記録して下さい。  
○タイム競争ではありませんから正確なキーワードを記録して下さい。  
○まわる順番はグループで決めて下さい。

※指示に従ってキーワードを入れて下さい。

No.2	No.6	No.1	No.3	No.5	No.4
------	------	------	------	------	------

まち歩き用のワークシート

## この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- 自主防災会内に元小学校教員がおり、夏休みに一部の子どもたちの宿題を見てあげるなど日頃からの交流があったことにより、参加者の募集が円滑に進んだ。

## 事例 08 3 4 夏祭りで防災！非常用持ち出し袋コンテスト

## 多賀城市 新田地区

- 新田地区は3つの区に分かれており、各区で自主防災組織を立ち上げ活動している。全1,900世帯のうち、三区はその中で919世帯と最も世帯数が多い地区である。
- 新田三区では、近年、居住者が増加する中で、顔が見える地域づくりに力を入れてきた。若い世代は地区行事への参加が比較的少なく顔が見えにくいいため、子どもを中心とした地域づくりにより、子どもや保護者などの若い世代が地域住民と顔を合わせるような場づくりに取り組んでいる。

## 進め方とポイント

## 準備

- 自主防災会と、夏祭りの主催者(町内会)で企画内容について共有し、景品を準備する。
- コンテストの審査員は自治会役員他、防災士や宮城県防災指導員に依頼した。

## 案内文書の作成と周知

新田三区各位

令和 元年 6月 吉日  
新田三区区長 佐藤一雄

新田三区夏祭りについて連絡

標記について、下記のとおり夏祭りを開催します  
記

新田三区区民の夏祭りを通して交流・親睦の輪を深める事を目的に開催します。

1 日時・場所  
令和元年7月27日(土) 午後3時～午後6時  
雨天時 28日(日) 午後3時～午後6時

2 場所  
新田新後公園

3 簡易屋台等 午後3時～午後6時

(1) 農産組合の野菜等の販売  
(2) しもドレスニングコーナー  
(3) ヨーヨー釣りコーナー お子様限定(2個目10円)  
(4) フランクフルトコーナー 一本 100円  
(5) 焼きそばコーナー 一個 200円  
(6) 綿あめコーナー 無料  
※ ジュース等 100円 ビール等 200円

4 催し物等 予定時間

(1) 輪投げゲーム 大人・子供 午後3時10分～3時35分  
(2) 紙飛行機飛ばし(大人・子供) 午後3時45分～3時55分  
紙飛行機は事前に作って持ってきてもいいです。  
当日会場で作ることもできます。

※ 特別企画 午後4時00分～4時10分

(3) 災害時、避難用持ち出しグッズコンテスト  
災害時もっとも必要とする避難用物品各人2点(非常用持ち出し袋に入れて参集)※子供対象

(4) ○×ゲーム 午後4時15分～4時25分  
(5) うた祭り(栗野敏夫さん) 午後4時30分～5時00分  
(6) ビンゴゲーム 午後5時10分～5時30分

5 閉会 午後6時予定

案内文書

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

## 非常用持ち出し袋コンテストの実施要綱

- 小学生を対象に、一人3点の防災グッズを持ち出し用袋に入れて夏祭りに持参する。
- 自分が必要だと考える物であれば何を入れるかは自由。保護者と相談しても良い。

## 夏祭りでの審査

- 参加者一人ずつ、持ち出し用袋の中身を紹介してもらう。その際、選んだ理由や、自分一人で考えたのか、などもインタビューし、審査のポイントにする。

参加者NO		NO23	NO24	NO25	NO26	NO27	NO28	NO29	NO30	NO31	NO32	NO33
審査員からの問い	基準点	点数	点数	点数	点数	点数	点数	点数	点数	点数	点数	点数
家族と相談して持参 家族とのコミュニケーション (家族の防災意識)	6点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点
自分だけで考えて持参 子供の防災意識 (子供らしい考え)	10点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点
絶対必需品と思われる (理由:もってもらいたい) 誰が聞いても納得する理由	14点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点
合計	30点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点
順位												
参加者NO		NO34	NO35	NO36	NO37	NO38	NO39	NO40	NO41	NO42	NO43	NO44

## 表彰、入賞者の持ち出し袋の紹介

- 表彰は上位3位までとし、景品は参加者全員に進呈した。
- 上位入賞者の持ち出し袋は、その後の地区の防災避難訓練でも紹介した。

## この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- 子どもがグッズを選んだ理由を紹介することで、祭りの参加者も防災について考えるきっかけになった。また保護者と一緒に考えた子どももあり、保護者の意識も高めることができた。
- この地域の夏祭りは午後から夕方に開催しており、明るいうちだと防犯上の危険が少なく子どもだけでも参加できるほか、幼児連れの保護者も夜に比べると参加しやすい。また、昼間なので互いの顔が見え、参加者同士が顔見知りになることで防犯性を高めることにつながっている。
- 町内会長をはじめ、防災活動に取り組む隣組など地域防災に熱心なメンバーが中心となり、地域の企業とも連携して子どもを中心とした行事や取組を活発に展開している。



夏祭りの様子



## 08 4 住民間のコミュニケーション促進

- 災害時に地域の共助が力を発揮するには、平常時からの地域住民の顔の見える関係づくりや良好なコミュニケーションがあることが重要です。これらにより、あまり防災に関心のない住民の参加促進につながります。
- 住民参加の第一歩となる場づくりとして、様々な地域資源を有効活用し、または機会を創出してコミュニティの強化に努めると効果的です。

## 進め方とポイント

## 既存のネットワークや行事を防災に関連付ける

- まちづくり協議会や市民活動連絡協議会など地域に既にある会議体や小学校の保護者ネットワークなどに働きかけ、防災を議題として取り上げたり、防災に関する活動を展開してもらったりすることも一案です。
- また、祭りや運動会などの行事で、啓発資料や防災グッズを配布するなど防災の要素を取り入れると、多世代で防災に触れる機会が増えて、関心も高まります。

## 防災をメインにした地区懇談会で住民ニーズの把握

- 住民が気軽に参加でき、防災に関する様々な事項をテーマとして意見交換を行う、地区懇談会やワークショップを定期的で開催し、広く住民の課題認識やニーズを把握する方法があります。
- 「防災」にはかたいイメージがあるため、「カフェ」「教室」「ワークショップ」等のやわらかい言葉を活用して、子どもや女性などの参加促進を図る取組も見られます。

## 防災を切り口としたコミュニティ強化

- 「防災に関することではないけれど、活動そのものや、活動の結果としてつながりが広がることによって、結果的に防災につながる」取組があります。高齢者の見守りボランティア活動や子どものキャンプなどがその一例です。
- 高齢者福祉やまちづくり、その他の地域活動を行う様々な主体と連携し、こういった取組を進めて、コミュニティを強化しましょう。



01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

## 事例 08 4 1 地区懇談会+全戸訪問による住民の実態把握

## 東松島市 上河戸若葉自主防災会

- 日頃の近所付き合いや地域行事で「お互いを知る」ことに加え、防災や災害時のことに特化した地域住民の実態（課題、ニーズ）を把握することも重要である。
- 上河戸若葉自主防災会は、管轄行政区内を「地区」という小単位に区分し、地区ごとに「住民と自主防災会役員の懇談会」を開催し、住民から課題やニーズを聞き取るだけでなく、全戸訪問による災害時避難場所の意向確認を行った。

## 進め方とポイント

## ①地区懇談会

- 1～2ヶ月に1地区ずつ。各回1時間程度の頻度で開催。
- 「普段からの備えの状況」、「災害に対する懸念・不安」、「あなたが考える防災上の地域の課題・ニーズ」、「疑問に思っていること」などの質問に対する回答者の自由な答えを聞き取った。
- 「防災」のこと以外でも、町内会から情報提供（告知）や住民からの意見収集も併せて実施した。
- 聞き取った内容を整理して、地域の防災を検討する項目にする。



地区懇談会の様子

## ②全戸訪問

- 全戸訪問を通し、次の項目について聞き取りを行った。
  - ① 近くの避難場所を知っていますか？
  - ② どこに避難したいですか？
  - ③ 災害が起きたときの家族内の連絡方法を決めていますか？
  - ④ 避難要支援者の登録を希望しますか？
  - ⑤ そのほか気になることはありませんか？
- 以上を集計するとともに、②について地図化も行い、複数箇所に分かれる避難者数の推計を行った。

## この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- 上記2つの取組は、地域の防災を検討する上での重要項目を洗い出したり、実態を把握したりという直接的な成果だけでなく、丁寧なコミュニケーションを通して「顔の見える関係」「相互信頼関係」を築くという、間接的であっても根幹的な効果をもたらすものである。
- これには多大な時間・労力を要するが、実施できる可能性があれば、チャレンジする価値が大きい。
- 住民が避難したいと思っている場所が、本当に避難場所として適しているのか、避難場所になった場合、どうやって運営するのか、などの具体的な検討が必要となる。

## 事例 08 4 2 「土手の花見」型防災

## 巨理町 浜吉田西区自主防災会

- 防災に関する訓練や行事は、防災単独だと関心や参加人数の面で課題があるのも事実である。これについて、防災に関する訓練や行事を「他のものと組み合わせること」、「防災に関することではないけれど、結局は地域の防災力向上につながる」として実施することも大変効果的である。
- 「土手の花見」という言葉がある。これは、「寒さ・雪で弱った土手で花見を行うことにより、人が土手に集まり堤が締め固められ、かつコミュニティが強くなる」というもので、防災と言わない防災である。「楽しくやって結果として防災につながっている」という意味で、防災分野でよく使われる言葉であり、浜吉田西区では、随所にこの「土手の花見」型の防災の取組が見られた。

## 進め方とポイント

## 例①:芋煮会

- 宮城県内では、秋に伝統行事の芋煮会を実施することが多々ある。これは災害時に行う炊き出しの訓練にもなっている。使用する調理器具、食材を集めることは「物資調達」の訓練、調理は「炊き出し」の訓練となり、技術向上につながる。
- 浜吉田西区では炊き出しを婦人会が担当しており、この婦人会は毎年人員が交代するために、住民が一通り経験できるようになっていることもポイントである。

## 例②:浜吉田西区サポーターの会

- 区の12名からなるチームで、普段は、砂利敷き、側溝清掃、花いっぱい運動を実施しており、災害発生時には、このメンバーが区の中心的役割を担う。
- 日頃の活動が、連絡体制の強化や災害時対応の訓練にもつながっている。

## この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- 浜吉田西区の事例は、いずれも「人材育成」が目的になっていることが重要である。楽しくやることはもちろんだが、「地域住民を育てる(人材育成)」という目的は、地域の活性化にもつながっている。

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

## 事例 08 4 3 多世代が参画するマンション防災ワークショップ

## 仙台市 グリーンキャピタル長町Ⅱ管理組合

■ グリーンキャピタル長町Ⅱ管理組合は、子どもから高齢者までの多世代にわたる参加者がともに活動できる防災ワークショップを開催し、マンション居住者の防災意識の向上に取り組んだ。

## 進め方とポイント

## 準備

- 多世代にわたる参加者が防災について楽しく学べる活動内容を提供できる講師を探すとともに、活動に必要な物品を準備する。
- マンション内の子ども会や敬老会等の関係団体との連携を図る。

## 防災ワークショップ(LODE)の実施

- 依頼した講師から、子どもから高齢者までの多世代にわたる参加者がともに活動できる防災ワークショップのツールとして、LODE(マンション版)の提案があり採用した。
- 子どもから高齢者までの多世代で構成されたグループを編成し、グループ活動型のワークショップを実施した。

## 新しい災害図上訓練ゲームLODE

LODEとは

L(Little people):子ども、O(Old people):高齢者、D(Disabled people):障がいのある、E(Evacuation):避難の頭文字を取って名付けられ、DIG(Disaster Imagination Game:災害図上訓練 通称:ディグ)を発展させた避難行動要支援者の支援に重点をおいた新しい災害図上訓練ゲーム。

作成者:特定非営利活動法人災害ボランティアネットワーク鈴鹿



LODEの様子

## この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- 支援のアイデアや気づきについて成果を発表し、避難行動要支援者の支援の重要性について、参加者全員が共通認識を持つことができた。
- 講師の適切な指導により、子どもたちから高齢者までの多世代が熱心に取り組むことができた。



成果発表の様子

## 08 5 自主防災組織間の学び合い

- 自主防災組織の活動をより充実したものにしていくためには、近隣の自主防災組織との情報交流や先進事例を参考にすることも有効です。
- 自主防災組織間の交流が深まることにより、災害協力協定の締結につながる事例もあります。

### 進め方とポイント

#### 他地区に学ぶ

- 同様の課題を抱える自主防災組織同士で、勉強会や交流会を実施して取組内容を共有し意見交換を行ったり、訓練等行事の機会に視察・見学を行ったりすることで、互いの防災活動や今後の取組への参考・刺激となります。
- 参考となる自主防災組織については、地域の特性や課題を踏まえ、自治体や宮城県防災指導員などに相談するとよいでしょう。



#### 自主防災組織連絡協議会の設立

- 市町村内の自主防災組織代表者で構成する自主防災組織連絡協議会を設立し、自主防災組織活動等に係る情報交換、研修会の開催、防災に関する知識の普及・啓発等に取り組んで行くことも効果的な方法の一つです。
- 宮城県内には、「気仙沼市自主防災組織連絡協議会」等があります。

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

事例 08 5 1 他自主防災組織の活動の見学

# 栗原市 高清水地区九区自治会自主防災会

■ 高清水九区自主防災組織は、仙台市宮城野区福住町町内会が主催する「第17回福住町防火・防災訓練」、および仙台市青葉区片平地区まちづくり会が主催する「第4回防災宝探しゲーム」を視察した。

## 進め方とポイント

### 準備

- 自治体や宮城県防災指導員などと連携し、積極的に先進事例の情報を収集する。
- 視察先との調整を行う。

### 第17回福住町防火・防災訓練

- この活動は、中学校区での学校と地域との合同防災訓練として開催し、地元の福住町公園を訓練会場に、子どもたちが仙台市地域防災リーダー等と一緒に訓練に参加する形式となっていることが大きな特徴である。
- 多様な体験を伴う訓練内容に加えて、小学生や中学生、その保護者、福住町町内会役員、仙台市地域防災リーダー等多くの関係者が参画している状況を見学した。



第17回福住町防火・防災訓練と見学の様子



第17回福住町防火・防災訓練の会場配置図

## 第4回防災宝探しゲーム

- この活動の特徴は、仙台市青葉区片平地区在住の仙台市地域防災リーダーなどがガイドとなり、片平地区にある豊かな自然や歴史・文化、防災資源などを、宝探しゲーム風のまち歩きをしながら片平地区に住む小学生らに教える活動である。
- 初めはガイドされる立場だった子どもたちが、継続開催していく中で高校生に成長し、小学生たちに教えている状況を見学した。



第4回防災宝探しゲームと見学・体験の様子



第4回防災宝探しゲームのガイドマップ

## この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- 先進的な自主防災組織と同じ活動をすぐに目指すのではなく、学ぶ側の自主防災組織にとって取り入れやすい活動から参考とし、段階的に充実化を図ることよい。
- 「百聞は一見に如かず」の言葉の通り、学びにあたり実際の活動を現場で視察することがとても効果的である。

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

## 事例 08 5 2 他の自主防災組織の活動の見学

## 登米市 細谷区自主防災組織

■ 細谷区自主防災組織は、運動会形式で防災訓練に取り組んでいる美里町青生地区による防災訓練を視察した。

## 進め方とポイント

## 準備

- 自治体や宮城県防災指導員などと連携し、積極的に先進事例の情報を収集する。
- 見学先との調整を行う。

## 運動会形式の防災訓練(解説)

- 美里町青生地区の防災訓練は4行政区の合同(青生地区合同防災訓練実行委員会)で、防災訓練の項目を運動会形式により、行政区の対抗戦として定期開催している。
- 各行政区の出場チームによる防災技能は、所属する行政区のテント前で披露され、地元住民から応援を受ける。
- 小学生から高齢者までの多世代にわたる参加者があり、防災訓練の項目に応じて、親子競技や女性種目など、参加者が主体性を持てるよう工夫されている。
- 水害が想定されている地域であるため、特製水路を用いた水中歩行体験も実施されている。

## 令和元年度青生地区合同防災訓練の内容

- ①防災グッズ(非常持ち出し品)の紹介・説明(女性宮城県防災指導員)
- ②負傷者救出訓練(救護班、指導:大崎消防)
- ③救急・救護訓練(1チーム5名編成)
- ④土のう積み(1チーム5名編成)
- ⑤水消火(器)リレー(小学生親子5組)
- ⑥水中歩行訓練(親子8組)
- ⑦バケツリレー(1チーム10名編成、女性、中学生)
- ⑧火事だ!(粉末消火器を使った)消火訓練(来賓ほか)
- ⑨放水訓練(消防団)
- ⑩救護物資の配布・炊出訓練



青生地区の運動会形式による防災訓練の様子



## 自主防災組織間の交流

- 運動会形式による防災訓練の視察だけに留まらず、活発な意見交換を行うことにより、自主防災組織間の交流を深めることができた。
- 主要な災害想定(水害)が共通している地区の事例を学び、自治区の防災訓練の企画準備に活かすことができた。



細谷区自主防災組織役員による見学と交流の様子

### この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- 想定される災害や地域特性が類似している先進事例を参考にすることが効果的である。
- 先進地には、多くの自主防災組織の関係者が視察に来ていることが多く、視察者同士のネットワークの広がりも期待できる。

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

## 事例 08 5 3 他の自主防災組織との交流

## 栗原市 高清水地区九区自治会自主防災会

- 栗原市の高清水地区九区と栗駒四日町は、互いの地域が南北に25km離れている。防災活動の活性化に悩んだ栗駒四日町が、市に相談し、市内で最も防災意識の高い地区として高清水九区が紹介され、交流が始まった。
- 栗駒四日町では、「山車祭りを核としたまちづくり」で、町内会活動の活性化に成功しており、これを防災活動にも繋げたいと考えていた。栗駒四日町が、高清水九区の防災活動に学ぶ形で交流が始まったが、互いの地域行事に参加しあうことで、高清水九区が活動活性化のヒントを得るなどのよい刺激になっている。

## 進め方とポイント

## 意見交換会

- 互いの地域の特徴や課題などの情報を共有するために、意見交換会の開催を企画した。

## 活動記録1

- 高清水地区九区自治会自主防災会の役員が栗駒四日町を訪問し、栗駒四日町の地域特性を学ぶとともに、防災の取組についての問題点などを共有することができた。
- 栗駒四日町の伝統文化である「山車祭り」の視察も行った。

## 活動記録2

- 栗駒四日町の自治会役員が高清水地区九区を訪問し、合同研修を実施した。
  - ・ 相互に自己紹介
  - ・ 栗駒四日町のお祭りに参加した感想
  - ・ 高清水地区九区自主総合防災訓練打合せ
  - ・ 栗駒四日町行政区長の講話「岩手・宮城内陸地震活動報告」
  - ・ 前職(宮城県職員)の現場経験に基づいた当時の被災状況などについての講話
  - ・ 交流会
 昼食を食べながら、高清水地区九区の地元のお祭りを映像で紹介し、交流、歓談した。



高清水地区九区と栗駒四日町の合同研修



研修会終了後の交流・歓談

## この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- 他地域の組織と交流をすることで、役員の意識改革ができ、マンネリ化しがちな活動にも新鮮さを加えることができ、相互に競い合い、高めあうような機会となった。
- 常日頃からの自主防災組織間の交流は、災害時、相互に支え合うことができる広域支援に向けた関係づくりに発展できる可能性を持つ。

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11